

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連	良く なっている			
	やや良く なっている	百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・ 来客数、買上客数の減少に歯止めがかからないものの、客単価が上昇傾向にあり、衣料品を中心に売上が増加傾向に転じてきた。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・ 例年と異なり、気温が下がりきらないため、季節商材の動きが遅れているものの、購買行動に動きがみられるようになっており、全体的に売上が回復している。特に実用品において動きが顕著である。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・ 商品の供給が安定してきたことで、イベント告知ができるようになり、売上がやや良くなっている。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ 宿泊客の稼働が上昇している。例年10月に入ると減少傾向になるが、今年は月末まで高稼働が続いている。特に国内からの団体観光客の入込が目立っている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・ 8月以降、管轄路線の旅客数が急激に回復している。使用機材小型化の影響もあるのかもしれないが、ビジネス客、観光客ともに活発な動きが継続している。
		タクシー運転手	販売量の動き	・ タクシー1台当たりの売上を3か月前と比べると、3.4%の落ち込みとなっているが、前年は約9%の落ち込みであったため、減少幅が縮小している。また、今月の売上は前年からは2.8%の増加となっていることから、景気はやや良くなっている。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・ 以前は客の支出意欲が完全に停滞していたが、現在は年末に向かう時期にもかかわらず、必要なものならば購入しようと積極的に考えている。自粛ムードが完全に払しょくされたとみられる。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・ 3か月前の来客数は前年比83%だったが、今月はほぼ前年並みの来客数で推移している。
		美容室（経営者）	単価の動き	・ この3か月、来客数は前年とあまり変わらないが、今月は関連商品を購入するなどの動きがみられるようになり、客単価が上昇している。
変わらない		商店街（代表者）	お客様の様子	・ 秋冬のシーズンに入り、季節商材の動きが徐々に良くなってきている。東日本大震災のショックも少しずつ薄れ、客の購入意欲が上向いてきている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・ 客の購買が気温の変化に左右されている。月初めの寒い日は羽織物が売れたが、その後は気温が下がらないため、アウター等の防寒物の購入にちゅうちょしている。前年に比べると、ウール等の単品物に動きがみられない状況となっている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・ 飲食店への客の入込が厳しい状況にある。客先の飲食店では仕入を押さえて、当座買いしており、極力在庫を持たない状況が続いている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・ 気温が高いため、防寒用の高額コートに動きがみられない。客の興味は今着ることのできる物にだけ向いている。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・ 紳士服や婦人服のジャケット、コート、ニットの動きが良く、販売量は前年を10%以上伸びて推移している。特にパンツの動きが顕著であり、前年を30%上回っている。また、紳士物はジャケット、スラックスの売れ方が良く、婦人物はニットのほか、今年のトレンドであるボンチョがよく売れている。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・ 買上客数は前年比98.9%と前年を下回っているものの、客単価の上昇により、売上が増加している傾向が続いている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・ 過去3か月、来客数は伸び続けているものの、買上客数は横ばい状態となっており、一時期の上り調子と比べると、客の財布のひもが固くなっている印象を受ける。欧州の信用不安やタイの洪水の影響から、景気の先行き不透明感が強くなってきていることが要因とみられる。
		百貨店（役員）	お客様の様子	・ 家電はエコポイント制度の終了による売り上げの低下でかなり悪いが、ストーブが堅調である。ただし、売れ方は店舗によって格差があり、各店の企画力に左右されている。

	スーパー（店長）	販売量の動き	・前年のたばこ値上げの影響とエコポイント制度の終了による売り上げの低下の影響から、商品の動きが前年と比べて低下している。
	スーパー（役員）	来客数の動き	・前年10月のたばこの値上げの影響もあるため、前年との比較では一概に判断できないが、たばこを除いた数値を比べると、客単価が前年比99.4%と低下している。その要因として商品単価の低下が挙げられる。また、最近の傾向として、何か特別な販促がなければ消費者に動きがみられないなど、シビアな消費行動となっていることがうかがえる。
	スーパー（役員）	販売量の動き	・前年のたばこの値上がりの影響で、見かけ上は前年より良い売上となっているが、たばこを除いた売上は前年並みとなっている。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・前年のたばこ値上げの影響で全体の売上は増加している。しかし、たばこを除いた売上は前年割れとなっており、客単価が低下傾向にある。
	衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・客の動向をみると、秋冬物の実需期に変わるなか、前年よりも客単価が下がっている。
	家電量販店（店員）	お客様の様子	・テレビやDVDレコーダ以外の家電商品は前年と同程度売れているが、テレビが売れていない分、売上の目標金額を下回っている。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売車種に大きな偏りもなく、全体的に若干の好調さを維持している。
	自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・この1年、来客数、販売量とも順調に伸びていたが、今月の実績を見る限り、このまま右肩上がりの売上を保持することは厳しくなってきた。
	その他専門店【医薬品】（経営者）	来客数の動き	・医療の分野においても、ブランド志向と安くても構わないというジェネリック志向に二極化してきている。
	その他専門店【ガソリンスタンド】（経営者）	単価の動き	・自動車用燃料の減少傾向が顕著であり、同業者による価格競争が続いている。
	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・前年と比較して売上が減少している。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・今月は週末、昼夜ともに満席の状態が続いたこともあり、売上は前年を14%上回り、久しぶりに2けたの伸びとなった。特に家族連れや中年、団体の客が目立った。
	タクシー運転手	来客数の動き	・10月のタクシーの売上は、中旬までは前年より良かったが、下旬が天候に恵まれたことから、利用客が減少し、月全体では前年を下回った。9月の売上がプラスになるなど、最近の動きとしては少しずつ良くなってきている傾向にあったが、天候に大きく左右される面がある。
	タクシー運転手	来客数の動き	・3か月前と比べると、売上は変わっていないが、前年比では6%の減少となっている。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・ここ数か月、ほぼ前年並みの売上で推移しているため、大きな変動がないように感じられる。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・客のマンションに対する購買意欲は依然として高い。購入までの判断が早いこと、値引き要請が少なくなってきたことが理由として挙げられる。一方で、経済情勢が好転していないなかで、購入に対して慎重に行動する客も増えてきている。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・年金支給時期の延長を検討するニュースが流れて以降、来客数や販売量の落ち込みがみられる。特に高額品の動きが鈍くなっている。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・景気が悪いなか、買物に対して後ろ向きの行動を取る客が多くなっている。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・天候不順の影響もあり、今月に入り来街者が減少している。また、隣接商店街のアーケード補修工事が未完成のため、中心部全体としての買物客も大きく減少している。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・年金の支給開始年齢が70歳になるといった、不安要素のあるニュースが流れているため、客の財布のひもが固くなっている。
	一般小売店【土産】（経営者）	お客様の様子	・外国人観光客が減少しているなかで、日本人観光客の買物もシビアになっている。買うのは自分の物のみで、近所や友人などへの土産はほとんど買わないため、客単価は10%低下している。

	スーパー（店長）	販売量の動き	・ここしばらくは3か月前と比べて右肩下がり販売量であったが、今月は前月比102.7%と少しだけ持ち直した。しかし、前月の販売量は前年比82%と減少幅が大きく、依然として前年を大きく下回っている状況にある。	
	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・前年にたばこ値上げ後の一時的な売上の減少がみられた反動もあり、前年比は大きく上回っている。しかし、たばこ以外の商品の売行きは鈍化しており、来客数の伸び率に対して売上の伸び率が下回っている状況にある。	
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・売上は前年並みであったが、来客数が減少した。値下げしたメニューへの客の反応は良いが、定額のメニューは内容が良くても売れにくい状況にある。一方、札幌での会議などに合わせて、道内各地から来店した客もみられ、少し売上に貢献してくれた。	
	観光型ホテル（経営者）	単価の動き	・依然として宿泊単価の回復がみられない。その一方で、旅行会社からの料金値下げ要求が強まっている。	
	観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・宿泊客数はほぼ前年並みとなったが、客単価が前年を17%下回っており、恒常的な低単価傾向が続いている。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・前年と比較して注文数が減少している。特に観光客からのオーダーが減少している。	
	観光名所（職員）	来客数の動き	・東日本大震災の影響もなくなりつつあり、個人旅行者を含めて回復傾向にある。一方、海外客は、中国や韓国からの旅行者が大幅に減少している。	
	パチンコ店（役員）	来客数の動き	・来客数の減少に加えて、客の使用金額の減少傾向がみられる。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・観光期を過ぎ輸送量が減少している。今年は天候に恵まれず、欠航日数が例年より多いこともマイナス要因となっている。	
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・株価の低迷、円高の進行、タイの洪水被害等により、客の消費マインドが非常に冷え込んでいる。	
悪くなっている	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・地上デジタル放送への完全移行に伴う需要が一段落しており、反動による落ち込みが顕著である。	
	家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・前年は家電エコポイント制度の最盛期であり、テレビを中心に10年に1度の売上増加があったが、今年はその反動が8月より続いている。特に10月に入ってから、状況は更に悪化しており、過去最低の売上で推移している。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	食料品製造業（団体役員）	それ以外	・国内景気動向の先行きに明るさがみられないものの、秋の行楽シーズンや年末需要期の受注増加がみられるほか、観光客の回復もプラス要因となっている。一方、どの業種においても企業業績の格差が広まるなか、円高や株価低下のマイナス要因によって金融機関の資金融資条件が厳しくなっている。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・首都圏では、東日本大震災の影響が幾分薄らいであり、今まで買い控えられていた高額商品が動き出している。請負物件も活発化し始めている。
		通信業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・販売量、問い合わせ件数は横ばいだが、単価の低下幅が予想より小さく、価格交渉に持ち込まれる機会も減少していることから、景況感は以前よりも回復傾向にある。
		金融業（企画担当）	それ以外	・東日本大震災後、大きく落ち込んだ外国人観光客は徐々に戻っている。建設関連では、住宅着工が低水準ながら増加していることや一部の企業では技能工を被災地に派遣していることもあり、人手不足の感が強まっている。
変わらない	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べると、受注量、販売量がやや増加しているが、収穫に伴う繁忙期であるためであり、そうした時期的な影響を考慮すると、ほとんど変わらない状況にある。	
	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・東日本大震災の復興需要に関連する仕事が出てきている。	

	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・製紙、医薬品、飼料製品の動向に大きな変化はみられない。収穫期を迎えて、農産物関連のでんぶんは前年より若干増加しており、ビート糖も前年より13～14万トン増加する見込みであるが、平年並みの水準までは見込めない状況にある。	
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・前月に比べて、取扱量がやや上向きとなったが、景気の回復というよりも、天候回復によるものとみられる。3か月前と比較しても大きな変化はみられない。	
	司法書士	取引先の様子	・建物の建築については、一時期と比較して上向いているようにみられるが、土地の取引は停滞したままである。	
	司法書士	取引先の様子	・景気回復の兆しが見えない。給与所得の目減り感があるなか、不動産取得や住宅新築などの大型消費は増える傾向になく、横ばいの状況が続いている。	
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・基幹産業である農業、特に肉牛生産が不調であるため、厳しい状況に変わりがない。	
	やや悪くなっている	建設業（従業員）	競争相手の様子	・上半期は建築工事の見積の引き合いがみられたが、下半期に入ってからほとんどみられなくなっている。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き延ばしになっていた案件が少しずつ動きだしており、前月との比較では多少回復しているが、決して見通しが明るいという状況ではない。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・全体的に仕事量が少なくなっており、消耗資材の販売量も減少している。
	悪くなっている	司法書士	取引先の様子	・建物の改装工事が増加しているが、新築工事が減少している。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数が堅調に伸びてきており、当初予想を上回って推移している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・9月に引き続き、求人数が増加している。全般的にどの業種も前月と同じ傾向で伸びているが、特にコールセンターの求人ニーズが伸びている。また、道内の製造業関連の求人ニーズも目立ってきている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・募集広告の売上が前年比134%と大きく伸長した。農業関連事業への派遣が前年比141%となったほか、飲食が前年比133%、運輸運送が前年比123%、小売が前年比118%と前年実績を上回った。前年実績を下回ったのは、医療の前年比89%だけであった。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は13.1%増加し、20か月連続前年を上回った。月間有効求人数は15.2%増加し、20か月連続で前年を上回った。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・例年、求人数が春に比べて徐々に増える時期であるが、求人に占める正社員の割合は前年と比べて大きく減少している。パートやアルバイトが相対的に増えており、企業の採用意欲はまだまだ慎重さを崩していない。求人企業の求めるスキルは相変わらず高いため、なかなかマッチングができず、求人が滞留している状況にある。また、求職者も増加傾向が一服しており、職探しをあきらめた求職者が増えている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数はやや増えているが、新規の増員ではなく、退職者の後任ポジションがほとんどであり、結果的に雇用数は変わらない状況にある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・今年の7月から求人数が伸び始めていたが、ここに来てほとんどの業種で弱含みの傾向となってきた。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は増加傾向にあるが、求人開拓の事業所訪問の場において、景気回復の話が聞かれないため、厳しい状況に変わりはない。
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・8月の求人数は前年を6.7%上回った一方で、新規求職者数は前年を4.7%下回った。月間有効求人倍率は0.57倍となり前年の0.52倍を0.05ポイント上回ったものの、新規求職者数のうち、正社員求人の占める割合は45.0%となっており、求人者と求職者の間における職種労働条件のミスマッチが少なくないため、依然として厳しい状況である。

	職業安定所（職員）	それ以外	・管内の求人倍率は0.51倍と前年を0.09ポイント上回ったが、依然として高い水準にあるとはいえない。
やや悪くなっている			
悪くなっている	-	-	-